



ことわる作法

政府による全国の小中高の臨時休業の要請を受け、千葉市の学校でも3月3日からの休業が決まりました。突然の決定でみなさんも戸惑っていることでしょう。しかし、新型コロナウイルスの感染を防ぐための措置と受け止めて、当塾でも別紙のような対応をさせていただきます。集団授業や各種イベントを中止せざるを得ないのは残念ですが、一刻も早い感染の終息を願います。

千葉県公立高校入試における、前後期制の最後の年の「後期入試」も何とか実施されます。後期に挑むみなさんは、一番最後まで頑張った人。胸を張って全力を尽くしてきてください。そして来春の入試はずっと前の形にもどって1回の入試となります。心配なこともたくさんあるでしょうが、少しでも不安を和らげるための入試説明会を4/19に行う予定です。その時までにはコロナも下火になってほしいものです。

さて先日メディア教育が専門の大学教授が寄稿された、SNSの利用で学ぶべきは「遊ぼう」を「断る」作法だという提案を興味深く読みました。これまでわが国では一斉授業が主流で、手間暇をかけて、教師と子どもあるいは友人同士の知識や意見の「一致」を求めてきたというのです。それはそれで意義のあることですが、その反面「不一致」の作法を学ぶ機会が与えられないままになっていることを懸念されています。児童生徒は日常におけるコミュニケーション経験がどうしても不足しています。大人のように、ほめたりほめられたり、言い争ったり、お世辞を言ったりという具体的な経験が少ない。そんな子どもたちが、現代のSNS全盛の世界に放り込まれた時に「遊ぼう」との誘いをどのように断るかのシミュレーション学習も必要ではないかということです。知らない大人、知っている大人、友達同士、単なる広告などと場合分けし、「断る」ことを学習する機会があればとの提案です。なるほどと思いました。

ますます一人でスマホに向かう時間が増えるであろう今後2週間、断る作法も忘れずに。